

MIA

この本を効果的に使って下さい



この本を効果的に使って下さい

Use this Book Effectively

M I Aの効果的な使い方

このプログラムは、グループによる勉強会方式でお使いいただくのが最も効果的です。グループで勉強することには以下のような利点があります。

1. グループの仲間たちのいろいろな考えカを知ることができる。
2. 何人かの人たちが集まることによって講師を招き、1人では聞くことのできない講師を呼ぶことが出来る。
3. 仲間たちが、自分の行動を一步一步進めていく姿を眼のあたりにして自分の行動をかりたてることができる。

身近にいる仲間なら自分とほぼ同じ境遇でしょう。かけ離れた偉大な人からよりも、仲間から受ける刺激は自分のモチベーションに直結するはずです。

4. グループに参加し、定められたスケジュールをこなしていくことによって、あなたは確実に学び、前進していくことができます。

* グループの人数は、ディスカッションしやすいように5人～10人程度が適当でしょう。

ただ、このプログラムは、あくまでも、あなた自身とあなたの企業の現在のあるがままの姿を前提として進行していきます。したがって、形式にこだわらず、それぞれのグ

ループが自分達に合った使い方を創意・工夫していただくのが最も好ましいと考えています。

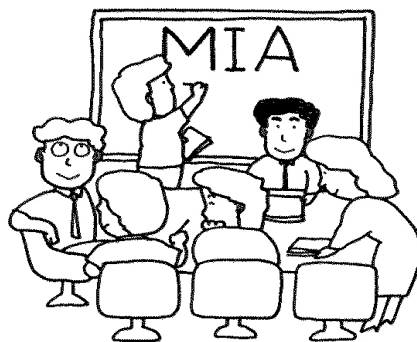
MIAプログラムは、**On Your Mark** から6つのステップと、7回の会議で終了するようになっていますが、チームの雰囲気によっては、必ずしもこのステップどおり進行しなくても一向にかまわないと考えています。

以下にあげる開催の方法論は、ほんの一例として参考程度にお考え下さい。

MIA開催方法一（例）

《毎回会場を変える》

会場は参加者の企業や自宅を順番に使い、毎回変える。勉強会の進行役は会場提供者が担当し、その企業をディスカッションのケース・スタディにする。普通の勉強会では得られないようないろいろな効果が生まれます。



《各人のノウハウを公開する》

どんな人でも自分の職業に関するものであればプロフェ

ツショナルとして、自信を持って話をしてくれます。

企業の中で積み上げられているノウハウは驚くほど豊富にあります。そんなノウハウをどんどん引き出していきましょう。それによって、グループの仲間意識が高まり、お互いに信頼感と尊敬の念が生まれ、より一層、良いチームとなっていくでしょう。ノウハウを交換し合う方法としてノウハウカードの利用が便利です。ノウハウカードについては、後にふれますが、これを参考にして大いにご活用下さい。

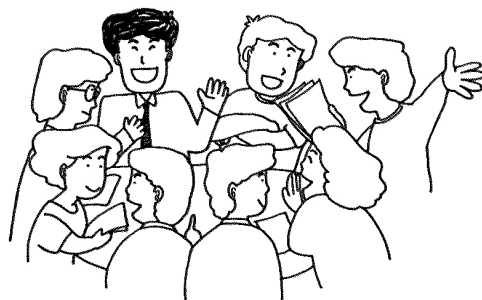


《ディスカッションの時間をできるだけ多くする》

どんなに理論的に優れた考え方でも、自分とはかけ離れていると思ったら、行動へのモチベーションとはならない場合が多いものです。逆に、自分が発言したことや、身近な人の考え方などは、すぐに取り入れ、行動に移すことが出来るのです。

時に、プログラムは伏せておいて、大いにディスカッシ

ョンしましょう。



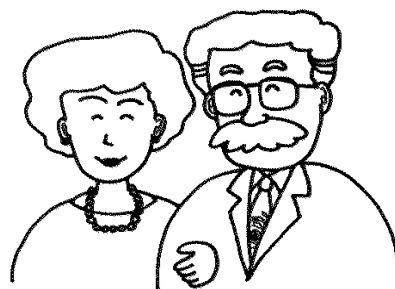
《優秀経営者の話を聞く》

特に、**On your mark** はオリエンテーションです。この機会に普段から注目している、身近にいる企業経営者から話を聞いて下さい。それも会場にお呼びするのではなく、直接相手の企業や自宅を訪問します。時に、会社の役員や奥様の同席をいただいて、話をお聞きすると効果は抜群です。

成功している経営者の大きな家や広い応接間、調度品や書棚、などを見て、あなたの将来に描く「理想像」を実際に眼で見ることが出来るチャンスがあるかもしれません。

また、MIAのテキストを訪問先で読んでみましょう。それを聞いて、優秀経営者の胸の中にはいろいろな思いがわき起こってくるでしょう。

質問項目の中には「苦しかったこと」「失敗談」などを入れてみましょう。成功したことよりも失敗談の方に多く学べるはずです。



《M I A以外の資料もどんどん活用する》

M I Aは価値体系づくりをねらいとしているプログラムですが、このプログラムだけでは充分ではありません。

つまり、人間の体で言えば骨格づくりであり、神経血管の配線づくりです。したがって、肉付けが必要です。

経営論、人間論、組織論等の情報・資料は豊富にあります。それらを十分に活用してこのプログラムの効果をより一層高めて下さい。



《くり返しの効果》

“継続は力なり”です。一サイクルの勉強会が終了したら、ある一定の間をおいて二度目、三度目と続けて勉強会を開いて下さい。二度目、三度目になったら、プログラムの内容にこだわらず、チームの個性に合わせた内容を企画し進行して下さい。

例えば、一泊研修会や、ビジネスゲームを企画したり、「生々流転」のモデル経営者の設定をする等のバラエティに富んだプランを立てて下さい。

M I Aは道具として使っていただければそれでよいので

す。M I Aの名の下に集い、ディスカッションをする。

ただ、目的意識として、あるいは経営者としての理想像の追求、方法論として、“チェック・プラン・ドゥー”のキーワードが生かされていればそれでよいのです。



《参加意欲を高めるために》

参加意欲を高めるのはリーダーの役目です。どうしたら出席してくれるか、その方法論（これもノウハウづくり）を考え出して下さい。

例えば

- 勉強会のスケジュールを明確にし、事前に配布する。
- 役割分担をつくる。（各ステップ毎の座長、発表者、資料づくり等）
- 終了証、受講記念品等をつくる。
- 記念写真を撮る。

《自分が学び終わったら、次のステップ》

MIAを一通り学び終えたら、次は、あなたがスタッフとなって、MIA講習会を企画してください。

自分の企業内で、また、後輩を集めて勉強会を開催するのです。学んだことは、人に教えることによって完成します。MIAのことはほぼ理解したと思っけていても、いざ教えるとなると、最初はうまくゆかないものです。教えるためには数字や言葉、人の名前・年号などが正確に出てこなくてはなりません。再勉強が必要になります。

MIAのテーマの一つ「継続は力なり」です。インストラクションを繰り返すことによって、自信を持ってMIAを広く展開できるようになるでしょう。ぜひ、挑戦してみてください。

MIA伝道師になって、地域社会におけるマネージャー、特に若い経営者に提供し、大いにご活躍ください。



ノウハウカード

Know How Card

Know HOW・・・技術情報、実知的知識。

人類の進歩は、ノウハウの歴史といっても過言ではありません。今、人間は二本の足で歩いています。しかし、最初から二本の足で歩いていたのではありません。初めて二本の足で歩いた人間が必ずいるのです。指先が器用で道具も使いますが、これも、初めて道具を使った人がいたお陰なのです。今、あなたの身の回りをみると、自然界にはない、いろいろな物に溢れていると思います。これも、第一発見者や発明者が必ずいます。最初に誰かが始め、それが便利のため、一般化して伝承されているのです。これが人類の進歩です。

ということは、私達自身の向上・進歩もまたノウハウの創造・開発に他ならないことを銘記すべきでしょう。

ノウハウの重要性は、まずノウハウの重要性に気がつくことからスタートします。その重要性に気がついたときに初めて飛躍的に、個性あるノウハウを際限なく手に入れることができるのです。

そのノウハウが、本物として、あなたの身についたとき、それをみて人は個性 (**Personality**) と言います。すばらしい個性は、ノウハウという手段をもって実現するのです。

「すでに発明、発見されているものを、さらに発見しな

おすほど、人間には時間を与えられていない」という言葉もあります。他人の開発したノウハウがあればそれを素直に取り入れましょう。

M I Aの勉強会は、仲間たちのもつノウハウも重要です。お互いに持っているノウハウを、別紙のようなノウハウカードに記入し、交換をしましょう。

ノウハウカードの記入は、3つのサンプルを添付してありますので参考にしてください。

白紙のノウハウカードが添付してありますのでコピーして使って下さい。大、小分類と作成者名、作成日は必ず記入し、整理して保有して下さい。

なお、このM I Aホームページでは、ノウハウカードの収集を行っています。是非、あなたのもつノウハウをカード形式にして、当サイトへお送り下さい。

MI Aの原点

The Origin of MIA

「いままで、われわれは、経営者像を求めるということを、まったく受身でやってきたんだよね。例えば、セミナーであるとか、講師の話を書くとか、ということで。それが単発的に開催されてきた、と思う。まあ、それはそれで、そういう情報を得たい、という欲求をJ Cメンバーが持っていることは確かだよ。一方で、もっと自分自身の問題、マネージャーとしての身の廻りの総点検を一ペンやってみた方がよいのではないかと思うんだよ。

つまり、あなたは本当に経営者としての資格があるのか？ というところからスタートして、より高いマネージャー像というものを自分自身で作りだしていく、というプログラムがあってもいいんじゃないか、と思うんだ」

所は長野、甲州屋常務室でこんな出だしでMI Aの研究が始まったのは、1974年11月7日のことでした。

「日本では、経営者の資格というチェックポイントがあまりないんだね。親父が社長で息子がいれば、それは親子という資格で、マネージャーになるということが意外と多いんだね。人をマネージする力というものとは別に、技術とか金力とかの資格があるからということだけで、マネージャーになるということもあるわけですよ。これらは、マネージャーではなく、単発型リーダーなんだね。

例えば戦場で、鉄砲をもって指揮するのに有能な人が、

必ずしも、酒場でリーダーシップをとれるとは限らない、ということだと思っんですよ。企業で本当に要求されている、マネジメントというものは、そんな単純なものではないと思う。もっとトータルに自分を見つめるということが必要なんだなあ。このことに気がつかない人がたくさんいますよ。このような単発型リーダーは企業の中で以外に危険性をはらんでくる。いろいろな企業でトラブルを起こして失敗していく人たちは、大方このパターンの単発リーダーですね。したがって、企業、という視点からみれば単発的リーダーシップ型リーダーから、マネージメント重視型リーダーへと変わっていく必要があると思う。このために、こつこつと自分のマネージャーとしての資質を向上させていくプログラムをつくってやっていくということが重要なわけなんだね」

約30分間、小野さん（日本青年会議所・元会頭・小野正孝氏）はいろいろな例を引き合いに出して、MIA（Management in Action）の考え方を述べました。

そして、これはMIA会議の中での、最初で最後の一方的な“演説”だった。

その後、毎月1回、短い時でも5時間をかけての会議の中で、小野さんは、時には聞き役に廻り、「そうか、そういう考え方もあったか、なるほどなあ、うん、そりゃいいや、素晴らしいねえ……」等々と、ほめ役に廻り、そして常にモチベーションを与えつづけ、最終的には、方向を見失わないように気をくばってくれました。

私たちにとってM I Aプログラムは、マネージャーとしての、リーダーとしての小野正孝、そのものの表現でありたい、と無意識のうちに思っていたように思います。

このようにしてM I Aは、小野正孝氏の強力な指導の下に、完成いたしました。

しかし、小野正孝氏は、M I Aの完成を見ずして逝ってしまいました。私達に、多くのモチベーションと、M I Aの基本的な発想（原点）をほぼ完璧な形で残して……………

（今井清二郎 記）

小野正孝氏略歴

昭和7年12月6日…長野市に生まれる

昭和32年…明治大学商学部大学院卒業

昭和33年…郷里長野に帰り、株式会社甲州屋入社、常務取締役就任、長野青年会議所入会

昭和41年…国際青年会議所副会頭

昭和42年…長野青年会議所理事長

昭和47年…日本青年会議所会頭

昭和50年11月14日…高松市三宅病院で死去 行年42歳

あ と が き

「挑戦すべき目標を見失った時、人間の衰退が始まる」と言われています。M I Aが最初に上梓された1970年代は焦点の絞れない混迷の時代でした。政治、経済、社会、文化などあらゆる事象に不確実性の形容詞が付きましました。

そして迎えた21世紀も、私たちは多くの課題をもっています。戦後、半世紀近く続いた経済・社会の成長・発展期は終止符を打ち、成熟期に入っています。分野によれば衰退期とも見える様相を示しています。まさに、M I Aが指摘する「生々流転」が現実になっているのです。

また、地球の限界を示し始めた環境問題には、人類の叡智が試されています。経済人としても無視することは出来ません。これからは、未来を想像する先見力が問われます。

目標を明確にして、忍耐強く、情熱をもって一步一步進んでいくことが求められています。

いつの時代にも課題・問題点は山積していますが、自分自身と自分の企業を前提に、目標をつくり、一步一步確実に前進するためのプログラムであるM I Aは、時代によって風化することはありません。生涯続けられるプログラムであると自信を持ってお薦めすることが出来ます。

どうか、このプログラムを使って人生の目標を達成してください。重要なのは思いを描くだけでなく、行動・実践です。さあ、勇気と自信を持って、目標に向かって歩み続けましょう。

M I Aプログラム

再編集委員会 2009.1.1

M I Aのあゆみ

- 1974年11月 小野正孝氏を中心に、プログラム研究
(昭和49年) に着手
- 1975年6月 中間発表(山形、群馬両ブロック会員
大会にて)
- 1975年11月 小野正孝氏逝去
- 1975年5月 M I Aプログラム完成 第1刷発行
- 1978年12月 第2刷発行(一部改訂)
- 1980年1月 日本J C経営開発(委)、一部改訂
(版権日本青年会議所に無償譲渡)
この年から全国展開。

以降、1988年迄、日本青年会議所・経営開発委員にお
いて、M I A担当チームが設置され、
各地にインストラクター派遣、関連書籍
の発行などが継続された。

発行書籍 「インストラクターマニュアル」(80年)
「M I A手帳」(81年)「薫習」(82年)
「起点」(83年)「道標」・「S S W」(84年)
「漸進」(85年)英語版・中国版(87年)
「宝庫」(88年)「M I Aプログラム絶版」

.....

- 2008年5月 M I Aサイト立上げ準備委員会発足
(平成20年)
- 2009年 月 M I Aホームページ開設

M I A再編集・サイト立ち上げ委員会

委員長 丸茂紀彦 甲府 J C O B

副委員長 中尾純啓 串木野 J C O B

同 柴沼和広 土浦 J C O B

委員 第3小委員会メンバー有志

同 M I A関係諸氏

顧問 横山昇一 M I A創設メンバー

同 久保田輝男 同

同 中西 進 同

同 小野正雄 同

事務局総括 今井清二郎 M I A創設メンバー

事務局長 吉澤保夫 米沢 J C O B

スタッフ 吉澤 匠 米沢 J C

連絡先 タックリサーチ(株)

米沢市福田町1-2-67

Tel 0238-23-1075